

囲碁部・囲碁クラブの顧問になられた先生へ
囲碁部を指導していただいている講師の先生へ
担当クラスや担当学年に囲碁をする生徒がいる先生へ

神奈川県中学校囲碁連盟のご紹介 2024

こんにちは。神奈川県中学校囲碁連盟と申します。
中学校囲碁部の生徒や囲碁をする小中学生のための、囲碁大会の運営をしております。
紙面にて、年間の囲碁大会や本連盟についてご説明いたします。
ご不明な点や、ご質問、ご意見等ございましたら、問い合わせ先にご連絡ください。

神奈川県中学校囲碁連盟 事務局

1. 年間の中学生対象の囲碁大会のご案内
2. 本連盟主催大会の募集案内、申込方法、会場と参加費について
3. 大会の運営スタッフについて
4. 認定大会の申し込みについての注意
5. 団体戦のチーム編成のルールについて
6. よりよい囲碁部運営のためのアドバイス
7. その他 ★用品の貸し出し ★本連盟について 等



神奈川県中学校囲碁連盟ホームページでは、
大会日程、募集要項等、最新の情報を掲載しています。

← ↓ ホームページ

<http://www.kanagawa-jhs-igo.sakura.ne.jp/wp/>

問い合わせ先

公立の 小中学校	横浜市立西金沢義務教育学校 副校長 笠井 清隆	TEL 045-784-0921 kanagawajhsigo@gmail.com
私立の 小中高等学校	桐蔭学園中等教育学校・高等学校 囲碁部顧問 三浦 弘生	TEL 045-971-1413 hmiura@toin.ac.jp

1. 年間の中学生対象の囲碁大会のご案内

本連盟では年間4～5回の県大会と、年1～2回の地区大会を運営しています。
 囲碁大会には<個人戦>と<団体戦>があります。どちらも半日～1日で終了します。
 実力(棋力)ごとにクラス分けした中で3,4回対戦し、順位決定や段級位認定を行います

神奈川県中学校囲碁連盟が主催（共催）している（小）中学生対象の囲碁大会

時期	大会内容	全国大会	大会名
春 5,6月	個人戦	有	文部科学大臣杯少年少女囲碁大会神奈川大会 兼 神奈川県中学生囲碁段級位認定大会
夏 7月	県 団体戦	×	神奈川県中学校囲碁選手権大会
7,8月	団体戦	×	川崎市大会、横浜市大会（個人戦もあり）
秋 10月	個人戦	×	神奈川県中学校囲碁段級位認定大会（3年生も出場可）
冬 12月	県 団体戦	×	神奈川県中学校囲碁選手権大会新人戦（1, 2年生のみ）
12月	団体戦	×	川崎市大会（1, 2年生のみ）
2月	団体戦	×	私立中学校高等学校囲碁選手権大会（3年生・高校生も出場可）
3月	個人戦	有	ポンド杯争奪全日本こども囲碁チャンピオン戦神奈川大会 および 段級位認定大会（3年生も出場可）*共催
他団体が主催する小 中学生向け大会の例		9月頃 12月頃	ロッテこども囲碁大会（東京） 湘南ひらつか子ども囲碁大会

<個人戦>の種類と主催団体の違い、顧問の引率について

大会の種類	大会内容	顧問の引率	主催団体
認定大会	・初心者(25級)～四段までが対象。 ・大会により、小学生や高校生も参加可能。	・囲碁部・囲碁クラブ等の団体で参加する場合は、顧問の先生等が引率。 ・生徒が個人で申し込んで参加することも可能。その際は先生の引率は不要。	本連盟 (神奈川県中学校囲碁連盟)
県代表決定戦	・主に三段以上が対象。 ・全国大会の予選となる。	・顧問の引率は必要なく、保護者の責任のもとに、個人で参加する。	別団体 (神奈川県囲碁連盟 等)

<団体戦> 3名1チームによる対抗戦、複数チーム出場可、合同チーム不可

団体戦は1チーム3名（場合によっては2名）の対抗戦です。
 部員数の多い学校は複数チームで出場することができます。
 団体戦は顧問の先生が引率していただき、スタッフとして運営にご協力ください。
 学校合同チームは認めていません。2～3名いればチームを組めますので、
 囲碁の普及のためにも、ぜひ同じ学校の人に囲碁を教えてチームを結成してください。

2. 本連盟主催大会の募集案内、申込方法、会場と参加費について

<大会の募集案内について>

神奈川県中学校囲碁連盟ホームページで、大会の募集要項を公開しています。
会場予約の関係上、6ヶ月前くらいに日程が確定し、
募集要項の掲載は大会実施日の2ヶ月前くらいになります。
今年度からは各校への直接配布は行いませんので、ホームページでご確認ください。

<大会の申込方法について> 募集要項をよく読んで、申し込んでください。

本連盟主催大会の申込方法の例	
Eメール 添付	顧問の先生（団体代表者）が、募集要項指定の申込用紙をホームページからダウンロードして、必要事項を入力し、Eメールに添付して送る。
オンライン 申込み	顧問の先生（団体代表者）、もしくは参加者個人が、オンライン申込フォームを利用して、必要事項を入力する。

<大会の会場について>

囲碁の県大会では、数多くの碁盤・碁石を使用するため、会場に盤石が保管してある次の二つの会場を主に利用しています。

- ・相模原市民会館（JR相模原駅より平坦な道徒歩20分、バスもあり）
- ・神奈川県教育会館（最後に急な坂を上ります）
（相鉄線「西横浜」より歩15分、京浜急行線「日の出町」または「戸部」より歩15分、
横浜市営地下鉄「高島町」より歩20分、バス停「水道道」下車徒歩10分）

学校の所在地によっては遠い会場となりますが、何卒ご理解ください。

50名未満の規模の大会では、

- ・横浜駅西口の「囲碁サロン宇宙棋院」や、各地区の中学校を利用しています。

<大会参加費について>

市民会館、教育会館、囲碁サロンのような有料の会場で大会を行うときは、大会参加費として、個人戦なら一人500～1000円、団体戦なら1チーム1500円を集めることが多いです。

団体戦の参加費は、<参加生徒が負担する>学校と、<部費で負担する>学校があります。

* 参加生徒が負担する場合は、3人チームの場合は一人500円ずつ、4人チームの場合は、主将と副将から500円ずつ、三将と補欠から250円ずつ集金する等。

3. 大会の運営スタッフについて

本連盟主催の大会では、引率の先生方に、運営スタッフをお願いしています。主に、参加費の徴収・対戦組合せの発表・結果記入など、囲碁が分からなくてもできる簡単な事務作業ですので、是非ご協力をお願いいたします。各クラスの責任者には本連盟事務局を中心に囲碁が分かる先生を配置しておりますが、100名以上が集まる大会を連盟事務局のメンバーだけで運営するのは大変難しいので、ぜひ、運営スタッフとしてのご協力をお願いいたします。なお、運営スタッフの皆さんにはお昼のお弁当と飲み物を用意させていただいております。ご事情があっても運営スタッフを引き受けることができない場合は、事前に、大会募集要項にある大会事務局までご連絡いただければと思います。

運営スタッフの中には、教員以外に、プロの囲碁棋士や囲碁インストラクターや、神奈川県囲碁連盟の方々、本連盟役員OBが加わることも多いです。大会当日、会場にて、プロ棋士やインストラクターの方による、囲碁初心者の先生方向けの囲碁入門教室（小一時間程度）を開催することもありますので、どうぞふるってご参加ください。

4. 認定大会の申し込みについての注意

囲碁の認定大会では、自己申告で現在の級（段）を申告し、勝敗によって認定を行います。

初心者は、まず25～19級のどれかで申告してください。13路盤で対局を行います。まだ自信がない人は25級、初心者同士で対戦して少し自信がある人は22～19級くらい。ただし、整地（終局後に陣地を整えて数える）ができるように練習してきてください。

ある程度上達して19路盤で打てるようになったら、18級以上で申告してください。

大会に参加すると、勝敗によって級（段）が認定されます。次の認定大会に申し込む際は、

- ① 前回認定された級（段）で申告する
- ② 前回認定された級（段）よりも上の級で申告する

○の例）前回18級と認定されたが、前回よりも上達したと思うので15級で申告する。

- ①、② どちらも可能です。

ダメなのは、前回認定された級（段）より下の級で申告すること。

×の例）前回1勝5敗で18級認定。今回は負けたくないのに20級で申告する。ただし、前回申告級が認定されていなければ、それより下の級で申告可。

×の例）前回1勝5敗で18級認定。今回は負けたくないのに20級で申告する。

5. 団体戦のチーム編成のルールについて

募集要項では詳しくご説明することができず、結果として、毎年申込時のトラブルが多い、団体戦のチーム編成の仕方についてご説明いたします。

7人の部員がいる学校を例として、ご説明します。

直近の段級位認定大会で認定された段級位が、次のようだったとします。

常石 8級、小池 8級、奥田 10級、小山 12級、王 14級、辻 & 安田は大会後に入部したので認定なし

× 認定された級通りにAチームから並べたが、実際の実力と違う

Aチーム			Bチーム			
主将	常石	8級	主将	小山	12級	*実際は奥田り小山の方が強いなら、この編成は×
副将	小池	8級	副将	王	13級	
三将	奥田	10級	三将	辻	23級	*三将と補欠は4回戦を交互に2回ずつ登場
補欠	なし		補欠	安田	25級	

ルールでは、強い選手から順にAチームから編成することとなっています。

常石と小池は同じ8級ですが、常石の方が少し強いと言うので、常石を主将にしました。

また、部員が7人なので、3人と4人に分けることになりますが、

4人チームの三将と補欠は交代で出場するので対局数が少なくなります。

そこで、弱い方のBチームを4人にしてみました。

ミーティングでメンバーを発表したところ、部員から次のような意見が出ました

「先生、小山さんは奥田さんより強いです。部内で対戦すると必ず小山さんが勝ちます。」

× 実際の実力通りだが、ルール違反（認定された級よりも下げてしまう = 実力を偽る ×）

Aチーム			Bチーム			
主将	常石	8級	主将	奥田	10級→13級×	認定された級より下げるのは×
副将	小池	8級	副将	王	14級	
三将	小山	12級	三将	辻	23級	
補欠	なし		補欠	安田	25級	

そこで、奥田と小山を入れ替えましたが、そのままでは、「強い順に並べる」に反します。

そこで顧問の先生は奥田を13級に変更しました。ブブー！

これもルール違反です。「すでに認定された級よりも下げてはいけません。」

それは実力を偽って、自チームを有利な状況にすることにつながるからです。

しかし、逆に、「すでに認定された級よりも上げることはかまいません。」

それは、認定された後に、さらに実力が伸びたと顧問が判断したことになります。

○ 実際の実力通りで、ルール上も正しいチーム編成

Aチーム			Bチーム		
主将	常石	8級	主将	奥田	10級
副将	小池	8級	副将	王	14級
三将	小山	12級→9級	三将	辻	23級
		級を上げるのは○	補欠	安田	25級

小山を奥田よりも強い9級に上げることで、実力通りでルール上もOKの編成となりました。

6. よりよい囲碁部運営のためのアドバイス

< 県内各校囲碁部の現状 >

囲碁部の顧問になられる先生のほとんどは、囲碁を知りません。
そもそも囲碁が分かる先生が30代～40代にはほとんどいません。
20代の先生方の中には、ヒカルの碁の影響で碁を覚えた先生もいます。
囲碁部員がたくさんいる学校は限られており、ほとんどの学校は少人数の部活動です。
土日に活動していたり、他校と練習試合をしている学校は、あまり多くありません。
多くの学校では、地元の方が、週に数回とか、月に数回とか教えに来ているようです。
私立ですと、プロ棋士やアマチュアの強い方が教えに来てくれている学校もあります。

< より良い囲碁部運営のためのアドバイス >

- ① **定期的に教えてくれる講師の先生を見つけ、大事にしましょう。**
どの地域にも囲碁の強い方はいるものです。碁会所や地区センターで囲碁を楽しんでいる方にあたってみたり、地域の囲碁連盟に連絡をとったりして、定期的に教えてくれる講師の先生を見つけましょう。
ご連絡いただければ、本連盟も講師を探すお手伝いをいたします。
- ② **対局記録をつけましょう。**
毎日同じ部員同士で対局していれば、だだだらしてきて真剣味が薄れてきます。
対局記録をつけたり、勝敗によって持ち点が上下するしくみを取り入れましょう。
- ③ **大会に積極的に参加しましょう。**
本連盟が主催する大会以外にも、各地域で大会があつたりします。
真剣勝負の1局は、普段の練習の何倍もの糧となります。
- ④ **対局以外の学習時間を設定してみましよう。**
学校にあるタブレットやパソコンに、囲碁ソフトやアプリを入れてもらいましょう。
AIと対局できたり、詰碁（つめご）の学習ができるものなど、いろいろあります。
ITがだめでも、市販の雑誌や問題集のようなものもたくさんあります。
- ⑤ **ときには、他校と交流試合をしてみましよう。**
（コロナ禍にある現在は少し難しいですが・・・状況が良くなれば）
いつもの部員同士でやるより、他校とやる方が真剣に対局できるものです。
土日が難しければ、平日にオンラインで行うことも可能な時代です。
本連盟事務局メンバーの学校も交流試合大歓迎ですので、ご連絡ください。
- ⑥ **黙って、頭の中で考えて、真剣に対局しましょう。**
部員同士仲良くなってくると、対局中にベラベラしゃべり続けてしまう人も。
特に囲碁は対戦相手と距離が近いので、他の競技よりおしゃべりがしやすいのかも。
いつの間にか人が集まってきて、雑談で盛り上がってしまう。囲碁部あるあるですね。
しかし、これでは上達するはずがありません。頭の中で一生懸命に数手先を思いめぐらせるのが囲碁や将棋といった競技の醍醐味なのですから。
上達してくると、頭の中で考えることも増えて、自然と静かに対局できるのですが、それまでは、部長や顧問の先生がビシッと注意することも必要かもしれません。

すでに囲碁部を担当している先生方からもアドバイスいただければ、幸いです。
ホームページで紹介したり、来年度配布するこのプリントにも掲載させていただきます。

7. その他

★ 夏の団体戦の全国大会中止について

7月の県団体戦は、夏の全国大会の予選を兼ねておりましたが、コロナを機に中止となり、その後もスポンサー不足から全国大会開催の見込みはありません。よって、県大会のみ行っております。

★ 持碁黒勝ちについて

上部団体である神奈川県囲碁連盟の意向を受けて、認定大会においては「持碁黒勝ち」としております。通常、囲碁では持碁「白」勝ちなのですが、普及の意味を込めて、より棋力の弱い黒番を応援するための独自ルールとなっております。ただし、持碁が生じるのは定先や置石のあるハンデ戦のみで、ハンデ無しの互先の対局はコミ6目半ですので、持碁は生じません。

★ 囲碁用品の貸し出しについて

本連盟では、随時、碁盤・碁石の無料貸し出しを行っております。急に部員が増えて用品が足りない、文化祭でイベントを行うので数が必要、などといった際にはお気軽にお問い合わせください。

★ 小・中・高合同の大会について

認定大会においては、小学生・中学生・高校生合同の大会となることがあります。

主な理由といたしましては、なるべく近い棋力同士で戦うことが必要な認定大会を、小・中・高別々で開催してしまうと、参加者が十分に集まらず、棋力の離れた人と対戦することになりがちなためです。

またもう一つの理由として、小学生の大会の場が少ないので、囲碁普及のために、本連盟もできるかぎり小学生が参加できる大会の場を増やしてあげたいと考えております。

中学校の先生方におかれましては、なぜ？と疑問に思われる方もいらっしゃると思いますが、囲碁は年齢性別関係なく、実力が近い同士で戦うと一番楽しさが感じられる競技ですので、児童生徒がともに囲碁を楽しむために、何卒ご理解とご協力をよろしく願います。

★ 神奈川県中学校囲碁連盟について

1996年に、横浜市立中学校の3人の先生によって発足しました。

そして、県大会も最初3校で始まりました。

その後どんどん活動校が増えていき、途中「ヒカルの碁」ブームのころには、300名を越える参加者となり、会場探しが大変だったようです。

現在では20～30校、人数にして100～200名くらいが参加しています。

また、かつて存在していた小学校囲碁連盟の活動休止の後を受けて、小中学生が一緒に参加できる大会を運営することもあります。

学校対抗の囲碁団体戦の発祥は、この神奈川県が最初です。

後に、神奈川県をモデルに学校対抗の囲碁団体戦全国大会が行われるようになりました。

ちなみに、中学校囲碁連盟が存在しているのは、現在、東京都と神奈川県だけです。

他の都道府県は、囲碁をする大人の連盟が、小中学生対象の大会を開催しています。

現在事務局は、県内中学校囲碁部顧問数名で大会の準備運営を行っていますが、人手不足で、退職された先生方や、事務局OBに毎回頼っている状況です。

もし、少しでもお力をお貸しいただけるとい先生がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局に入っていただきたいです。他競技の専門部とか競技役員のように大変なことは一切ありません。年に5回前後の大会運営がありますが、仕事内容を分担しています。事前の打ち合せ会議も1回しか行いません。オンライン会議も増えてきました。事務局も働き方改革を強く意識しながら運営しておりますので、ぜひお力を貸してください。